

岡山市の学校教育における学力の現状と課題及び今後の方向性

教育委員会の各取組のねらいやポイントが一人一人の教職員に十分に浸透していない。

教育委員会の強いリーダーシップ

全国調査の結果の分析及び活用不足

教育委員会や学校は、「考え表現する力」や「学ぶ意欲」の育成を重視し、子どもたちの日頃の学習の状況や活動の様子から学習の成果を測っており、全国学力調査の結果だけを学習の成果と捉えていない。

絶え間ない検証

教員がお互いに授業を見合う教え合うという機会が不足しており、授業改善に向けた実践的な取組が進みにくい。

全国調査の効果的な活用

中学校では、教員が生徒指導と部活動に追われ、生徒が主体的に参画する授業の組織的な研究を進めにくい傾向がある。

学力アセスの推進

課題の深刻化

小学校では、クラスのことば担任だけで解決しようとする傾向がある。

家庭・地域に改善を求めたいことについて、学校からは言いにくいケースがある。

社会や子どもの変化への対応力不足

発達障害のある子どもなど、支援や配慮を必要とする子どもが増加しており、従来の指導では効果が上がらないケースが増えている。

＜別紙2＞

授業研究の推進

保護者や社会から学校への多種多様な要請・要望が増加している。

変革とチャレンジ

全国調査の結果が小学校では改善しているが、中学校では正答率が低い。

学力向上に向けた取組の成果としての全国調査結果の改善

将来目指す子どもの姿

教員の負担の増加

<別紙1> 全国調査の効果的な活用

現状と課題

○教育委員会や学校は、「考え表現する力」や「学ぶ意欲」の育成を重視し、子どもたちの日頃の学習の状況や活動の様子から学習の成果を測っており、**全国学力調査の結果だけを学習の成果と捉えていない。**

全国調査を十分に活用してこなかった。

一人一人の学力の経年的な把握ができず、その向上に向けた具体的な改善策につながらなかった。

子ども一人一人の学力を伸ばしていくために、全国調査を効果的に活用する必要がある。

<注目していきたい指標>

全国調査偏差値(H28)

教科	小6	中3
国語A	49(34)	48(46)
国語B	50(23)	48(47)
算数A・数学A	50(33)	49(41)
算数B・数学B	50(11)	48(45)

()内の数字は、仮に正答率の都道府県の順位に当てはめた場合の位置

継続的な授業改善(めあて・振り返り、考え表現する場)の徹底・深化を進めながら

A問題…主として「知識」に関する問題
B問題…主として「活用」に関する問題

全国調査での無解答率(H28・中3)

教科	岡山市	全国
国語A	3.0%	2.0%
国語B	7.4%	4.4%
数学A	8.3%	6.3%
数学B	19.0%	14.7%

学習習慣・生活習慣の状況(H28・中3・生徒質問紙)

項目	岡山市	全国
家で学校の授業の復習をしている。	40.5%	51.0%
平日に1日当たり2時間以上テレビゲームをしている。	38.8%	34.9%

方向性

教育委員会の強いリーダーシップ

全国調査活用に向けた取組の実施

○全国調査に向かう教員の姿勢・意識の改革
学力向上等を目指した学校の主体的な取組を支援するとともに、成果を上げた取組を全市に広げていく。

○全国調査に向かう子どもの意欲の向上
教育委員会が作成した振り返りシート等を活用し、教員の指導の下、子どもたちが自分で目標を持ち、結果を分析する。

小4～中3までの継続的な学力の向上

○岡山市学力アセスの本格実施
・岡山市学力アセス 小4, 小5, 中1, 中2
・全国調査 小6, 中3
経年的に一人一人の学力を把握するとともに、全国調査で市全体の状況も確認する。

目標(H)

教科	小6	中3
国語A		
国語B		
算数A・数学A		
算数B・数学B		

継続的な授業改善(めあて・振り返り、考え表現する場)の徹底・深化を進めながら

教科

教科	岡山市
国語A	
国語B	
数学A	
数学B	

項目

項目	岡山市
授業の復習	
テレビゲーム	

<別紙2> 授業研究の推進

現状と課題

○教員がお互いに授業を見合う教え合うという機会が不足しており、授業改善に向けた実践的な取組が進みにくい。

○中学校では、教員が生徒指導と部活動に追われ、生徒が主体的に参画する授業の組織的な研究を進めにくい傾向がある。

授業改善への取組が進みにくかった。

○小学校では、クラスの仕事は担任だけで解決しようとする傾向がある。

課題の深刻化につながることがあった。

授業改善に向けた教員の意識改革とその仕組み作りを行っていく必要がある。

方向性

教育委員会の強いリーダーシップ

小学校・中学校を一貫した教育の強化

○一貫を充実させる仕組み作り

- ・教員採用試験で「小中連携推進」枠を設けるなど、小学校と中学校の人事交流を進める。
- ・小学校への一部教科担任制の導入を研究し、学級担任だけでなく多くの教員で子どもたちを指導していく環境を作る。

○就学前から中学校までのカリキュラム(教育計画)の作成

- ・教育委員会がリードし、まずは、小学校と中学校で一貫したカリキュラムを作成することで、教育観、指導観などを共有する。

授業研究の活性化に向けた機会と場の設定

○中学校区での授業研究のさらなる充実

- ・授業を行うクラス以外の子どもを昼で下校させるなどし、中学校区の教員全員が一つの授業を見て協議し合う日を設ける。
- ・代表者による公開授業を校にした授業研究を行い、それに参画することで全教員の授業力向上につなげる。

目標(H)

教科	小6	中3
国語A		
国語B		
算数A・数学A		
算数B・数学B		

継続的な授業改善(めあて・振り返り、考え表現する場)の徹底・深化を進めながら

()内の数字は、仮に正答率の都道府県の順位に当てはめた場合の位置

授業研究等の状況(H28・中学校・学校質問紙)

項目	岡山市	全国
模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている。	63.2%	84.2%
校長が校内の授業を週2回以上見て回っている。	65.8%	82.6%

項目

実践的な授業研究
校長の授業観察

岡山市